

トマトの3段密植養液栽培に適した品種

野菜作物研究部

当センターでは、安定した施設トマト栽培の経営に向けて、従来を上回る高収量を省力的に安定して周年生産できる技術の開発に取り組んでいます。そのような折、当センターも参加して、全国的な研究組織「スーパーホルトプロジェクト (SHP)」が平成18年度に発足し、「養液栽培の周年栽培、糖度6度、年間収量50トン、1haの経営規模で年間1800万円の収益」を具体的な開発目標にかかげ活動をはじめました。(SHPについて: URLは <http://www.jgha.com/project/sh-project/index.html>)

SHPでは、省力的で高品質生産が容易な3段密植養液栽培による目標達成を目指し、最適なトマト品種を評価する試験を昨年度に計画しました。そこで当センターではSHPと連携し、3段密植養液栽培による超多収栽培向け品種の選定試験を行いました。作型は8月まきとし、桃太郎ヨークを対照品種に4社から出品された9品種を用いて、8月7日播種、8月31日定植で行いました。収穫開始は10月26日、12月7日にはSHPの品種評価会を開催、評価会後も栽培を続け、収穫が全て終わったのは1月8日でした。

表1に、3段までの全収量などの調査結果を示しました。SHP評価会で最も評価の高かったのは「MTX-111(丸種)」で、「スーパー優美(丸種)」と「KA-444(カネコ)」がこれに次ぎました。しかし残念ながら年間3.5作として換算した年間収量はいずれも50トンに及ばず、SHPの目標実現には課題が山積していることもわかりました。どうやら、これまでに明らかにされている、炭酸ガス施用や補光、気温の変温管理などの増収技術を全て組み合わせる必要があります。

表1 8月まき三段密植栽培におけるトマト品種特性検定試験成績(上位)

評価会 順位	種苗会社	品種名	SHP品種評価会までの収量		(参考)3段までの全収量		
			AB品 平均収量 g/株	平均糖度 Brix%	AB品 平均収量 g/株	平均 糖度 Brix%	AB品 年間収量 t/10a
1	丸種	MTX-111(未登録)	508	4.8	1006	5.0	21.1
2	丸種	スーパー優美	418	4.5	1136	5.1	23.8
3	カネコ	KA-444(未登録)	418	4.6	838	4.7	17.6

※年間収量は、栽植密度6000株/10a、年3.5回転として換算



MTX-111

スーパー優美

KA-444

図1 草姿 (11月29日撮影)



MTX-111

スーパー優美

KA-444

図2 果実 (12月7日撮影)